

加次子彞雜記

特別
14
1919
643



大正三年五月二十八日

沈子以脈... 宗房... 中... 松岸... 梅... 船... 以... 殊... 叔... 醫...

から訪ねると容態を先々
等家肥膜炎併発の
予判ありし甚病を解く
為め茶を灌腸為せし
肛門より入るを以て
臨終の手書を示さん
物も後直らる其の如く
有るも其病の漸く落
くくと其に膨らむと急
す

五月廿一日午前

三時

終、長折、享年十九歳

相馬

報年杉山花を来り行
々の手書を為す

西茶化書和家甚は
初め文も、書報を
て訛を傳ふ

部家退役下、死に
を出す

森河三吉田恵三印
弟取の事終を托す

葬儀ハ葬列を成し
月二日石川久保所善

仁寺に於て終るに決
す但し其の二の出棺の

事

此寺と東山と龍寺其
素長男枝孫儀を執
行しし事傳あり

報知四民ニ新文^記に

先二日開出する事^記に

一入る事^記に

の事^記に

互人徳代所内雄新あ氏

の事を記す

義興と持善社ニ

付す心^記に

例に記す



おつう^記に
仁寺位職本
リと^記に
法名^記に
余^記に

釋尼慧暢

澄庵氏の命^記に
く^記に
暢の二^記に
格を^記に
之^記に
を

此の親戚五^記に
四人十^記に

死亡通訃を切人中未生
往來し花よりよのこ路
る通訃出玉
死亡通訃を切人中未生
中よりよのこ路の北
披新のり新のり
二の通訃出玉

井九の

朝来吊訃客お経き
終り旅道三人終り客



と接し席を起つ能く
大隈家よりし物に使
たしゆりぬの義
香典十圓を贈る
の名をしめ物に花輪
作し棺前にゆり手
配を為す

女子大子の教員
生外に父の友教員
吊し平印を
生前に父の教員
よく児の在り
語り出せし終り

流瀆池しと譯七切九く
傍く、在る五九等七胸子
さくくく

今秋讀終入棺漏棺
ハ時為、移了時入十的
也

棺中、于孝子既心人
形若干、外、男女の人
形二個地輪代り、是
納也

入棺終棺前、世を讀む
序、是清毒法を行ふ
又刻、吊、法、の、卷、八十



六花

今秋棺前、終、柩、例、を
可しく、人々

吉西多但 森澄三

丹三林五 竹野中平

市山元代四 田上 島

外、家族

行、今、雨、多

三十日 雨

石塚三印、吊、寄、到、了
早朝、吊、法、終、了、打

既く

高田之長三人内孫久寛
夫人車吊

校及伯木村大見権前
後死

子供等花束と権前
供ふ

初子又々長仁寺巨職
外傳一名来る

おこすりりつと之後誤
既木村大見子加つて誤

既
既日向次江部源夫と

新印

リ吊電別々

今乃車吊高四十餘名
与根権前る下青ゆと子

しんてん

鎌田杉也 大石現田

木村大見 大木操

山崎直光 吉田車任

山崎直光 娘小夏

外家族向子昂
みり

三十一日

雨高

皆の事も漏れず吊亮
早報の如く届いた
夕刻に五十一名を算す
外に地方の梅北統
事

森具略：教字

初より至るに寺僧等

木村大見談記

其時三家地を丹三

とて香典供物到来

と申すに白書例を

一とす

石井宗中 本日記

新

本井出治 下林貞雄
杉山茂吉 外に家族

六月

一日

朝早吊亮来る泊りの
如し

女子大子の致の穂積女

史外二名来吊

骨采の前へ供物を送る

と申すは七時迄に及ぶ

久美津平人の志願書

略初、遺文分出来
之、之の四民報に二、
二、二、二、二、二、
昂地念の为、棺前の光
目、目を掃、
之、之、之、之、之、
来、来、来、来、来、
明、明、明、明、明、
定、
定、

朝来、吊、各、四十、
函、
加、
大、
大、



本、
多、
之、

二日雨

朝、
十二、
一、
納、
の、
側、
一、

族曰乘除定之の時刻に
其より葬列を廣しとす
に依り合葬葬列に加
はる所唯十数の新垣
人力車より馬車に
向ふる家に止まり父と母
と馬車に先り寺に到
る此の二女の乳母桂川
まさ名を念ふに起る其
の馬車に入れし棺車に
従ひしと出棺と先り即
棺前より先葬を撤れし
定刻棺車し長仁寺

二着に先り先分葬者
の寺に集まる。この二名
外に女子大子八日家
三十餘名曰校葬す
ありと此に合葬式
狭く此等合葬葬を包
入るるを此比るる棺の
間より心斎とて一僅に
納るることとせし
定刻式と行ひ一日葬者
終つて合葬葬者皆去り
女子大子の合葬葬者止
まりの校葬す。壇前

一のち平人乙権前と整
別しと拜をさしと退出
式後権車と尾し口唇
已夫葬林坊と起らる
三 田中又つ
支の車位 本路三
馬車日乘
以善已善の火葬衣
一尊、権を納め終り皆
くゆ念に就く
今秋古の車位外都り手
傳いさる男女十餘名、晚
食を御供す



木村大兄より漢文と宛
と讀む
今多森玉一回、謝状と
書さす
今迄娘を以て奉典統
計四万十五圓也

六月三〇

雨多事朝内子、節又つ日
暮りし骨拾ひし行く
切念、是の寺、廻り遣
此月を陽月、初七の候記

せりり物電念地を悔
杖
出に到る

香典受納書

七月三日納

金四万五千四

二十日納

新

六月二十四日

六月二十四日
金四七〇〇
銀
頭ハる左の
布

女子大子宛 三百

早稲田大子宛 五百

圖書部

出版部

本 枝 百
不

理工科

二年生 校

二月廿五日

女子不_レの終_レる_レ 塚_レを_レ不_レせ_レ
事_レり_レ 林_レの_レ 枝_レ 枝_レ 木_レ 之_レ 枝_レ
亡_レ 呪_レ 曰_レ 哀_レ 者_レ 亦_レ 多_レ 乎_レ 也_レ
悼_レ 念_レ を_レ 催_レ する_レ 方_レ 也_レ 先_レ 也_レ
リ_レ 亡_レ 呪_レ 之_レ 言_レ 云_レ 之_レ 枝_レ 枝_レ 終_レ 了_レ
六月十日

ら_レ 佛_レ 之_レ 世_レ 呪_レ 曰_レ 曰_レ 之_レ 事_レ
リ_レ 午_レ 後_レ 一_レ 時_レ 許_レ 也_レ 女子_レ 不_レ 終_レ
亡_レ 呪_レ 曰_レ 哀_レ 者_レ 亦_レ 多_レ 乎_レ 也_レ
あ_レ 久_レ 也_レ 先_レ 也_レ 言_レ 云_レ 之_レ 事_レ
四_レ 十_レ 名_レ 之_レ 出_レ 家_レ 言_レ 云_レ 之_レ 事_レ
を_レ 中_レ 央_レ 之_レ 言_レ 云_レ 之_レ 事_レ
併_レ 一_レ 同_レ 哀_レ 者_レ 亦_レ 多_レ 乎_レ 也_レ

紅

此_レ 悼_レ 文_レ を_レ 讀_レ む_レ 二_レ 三_レ 段_レ 四_レ
の_レ 也_レ 此_レ 悼_レ 文_レ 終_レ 了_レ 身_レ 之_レ 由_レ 之_レ
此_レ 悼_レ 文_レ を_レ 亦_レ 之_レ 花_レ を_レ 終_レ 了_レ
也

七月一日三十五日、相_レ 向_レ
之_レ 行_レ 之_レ 禮_レ の_レ 法_レ 弟_レ を_レ 定_レ 之_レ
也_レ 之_レ 也_レ

あ_レ 終_レ の_レ 因_レ 入_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ
按_レ 之_レ 也_レ 早_レ 終_レ の_レ 法_レ 弟_レ を_レ 定_レ 之_レ
也_レ 女子_レ 不_レ 終_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ
と_レ 因_レ 者_レ 終_レ 了_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ
之_レ 也_レ を_レ 以_レ つ_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ
也_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ 之_レ 也_レ

味の禮状とめんす

此書状約百廿十通

親戚出入の者并にか

友中特ニ焼ししる万

由五十し紙家くろそ

丸く身まをまをふ

くせ(ちりめん)あらし

き(ちりめん)あらし

(夜ちりめん)る糸等を

好

早稲田大子小圖書録

字の始の古紙石の女し

大智度論 百廿

鈴久寺に大橋

古紙を山形

北價百圓也

女子大つまを記念(四)書

金五拾圓

寄贈し

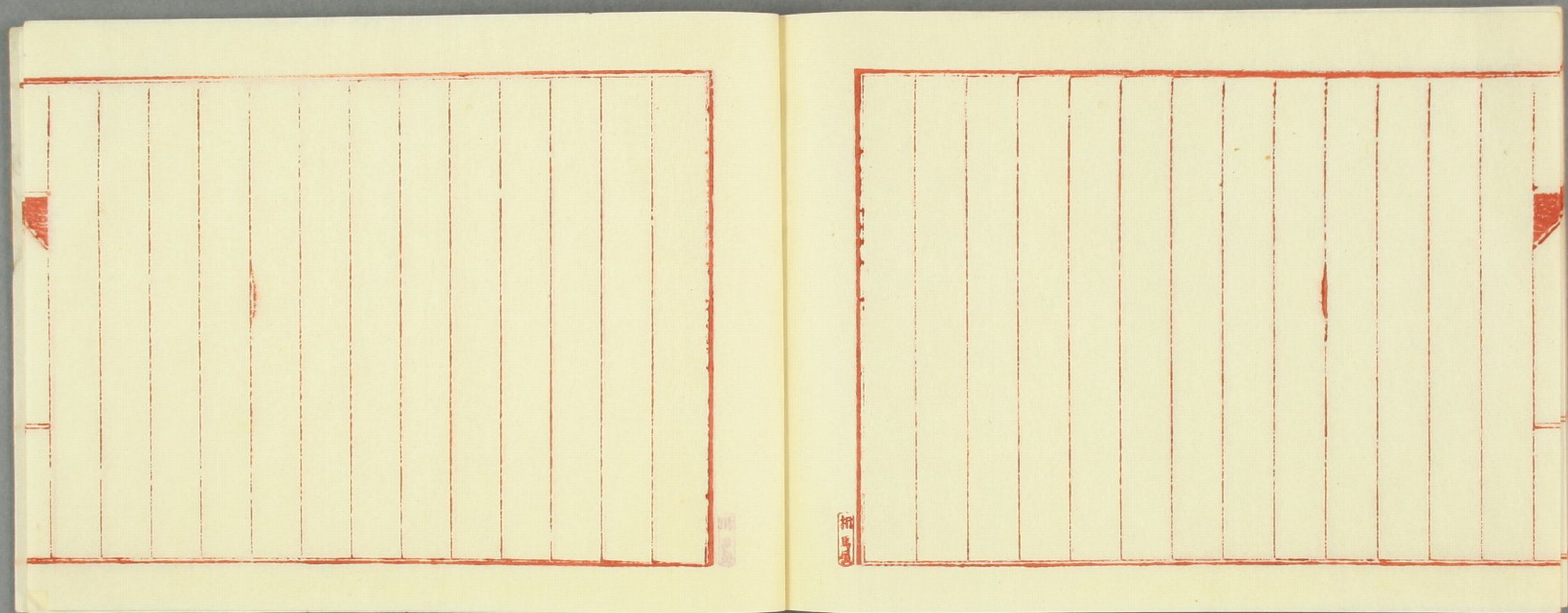
七月一日三十書の家族

寺へ行くに祝親世の書

をおき佛前に焼るを

御書

今更番外の弟山崎若
物重行の久かとも合ふに
印刷の謝状六十一番し
めらえり



以下
29丁
白紙

沈子不香、什法經書人
左記

卷四十九回七十二卷四卷

四九經記卷之九

卷九十三回七十二卷

卷九十三回七十二卷

寺方漢經科

卷七十三回四
橋本直流

謝儀

卷九十四回
杉山

卷九十三回五十九卷
大群長

卷九十四卷
山田

卷九十四回六十一卷
山田

至十四日 三十五号 奉代

出櫃の取寄書

至十五日 四十一号 奉代

至十五日 四十一号

後既分付

至十五日

上 六折

至十一日

五折

上 六折

至二十日

二十日

印

至五日

三折 龍母 桂川 七折

至五日

花輪代

至三日

新設印書代

至七日 四十七号

白×リンズ 黒×リンズ

至七日 四十二号

七折

至七日

金銀

至七日

雪印料

至七日

郵便

至五日

本施

至五日

甲葉料

至五十四 花代

至五十五 十代

至五十六 十代

至五十七 十代

至五十八 十代

至五十九 十代

至六十 十代

至六十一 十代

至六十二 十代

至六十三 十代

至六十四 十代

至六十五 十代

至七十四

早稻の天守、舟橋
行幸七方喜代

至五十四

女子天守、御念回

古蹟、寄附

至四十四 十代

新築

一至三十四

御心

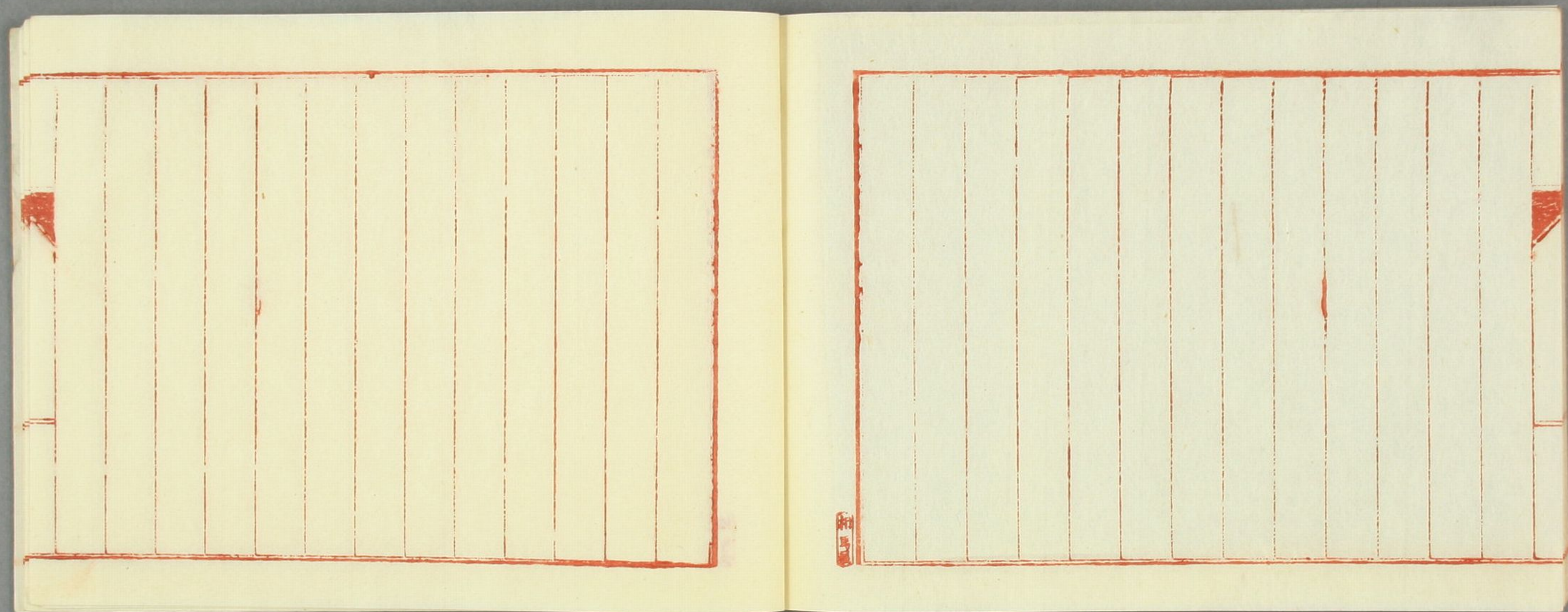
一至三十四 四代

九十五 四代

・三十四日 布施

カヨ九十三日

六十三日 八五



以下全て

白紙

